



子どもたちの手でテントを設営

えさし 我慢と協力を学ぶ1泊2日 防災キャンプ2014

子どもを対象にした“防災キャンプ2014”（子どもの未来を育てる「群」の会主催）が8月30日と31日の両日、江刺区岩谷堂の館山自治会館で開催されました。自然災害など緊急時の対応を学ぶ同キャンプ。ことしは市内の小学生19人が参加し、テント設営やいじめについて考えるワークショップなどを体験しました。同会の佐々木恵好会長は「不便な生活を体験して、家族みんなで防災について考えてくれれば」と参加者を見つめていました。

こもがわ 僕だって一人で歩けるもん よちよち歩き大集合

奥州ころもがわ祭りの一環として8月24日、衣川保健福祉センターを会場に「よちよち歩き大集合大会」が開催されました。このイベントは、子どもの健康を祈願して、1～2歳の子どもの風呂敷に包んだ3合の餅を背負い10mの距離を歩くというもの。ゴールで待つ家族の下へスムーズに歩いた千田彩菜ちゃん（2）の母親の恭さん（38）は「大勢の人の前で緊張すると思いましたが、ちゃんと歩いて安心しました」と笑顔で話しました。



母親の笑顔に見守られ間もなくゴール



人気キャラクターなどをテーマにしたユニークな神輿が勢ぞろい

いさわ 世代を超えて夏を盛り上げ 第33回世代ふれあい夏祭り

世代ふれあい夏祭り（同夏祭り実行委員会主催）が8月23日、南都田小学校運動場で行われました。祭りは同校子供会が地区ごとに趣向を凝らして制作した神輿パレードからスタート。幼稚園児による“つがい踊り”や中学校吹奏楽部による演奏などの後は、大人も加わり衣装や振り付けを工夫したよさこいソーランの群舞で盛り上がりました。夕方になると会場を夢灯りが囲み、幻想的な雰囲気。子どもからお年寄りまで、世代を超えて夏を満喫しました。



川面に映る幻想的な燈籠の灯

みずさわ 大切な人への思いを乗せて 第1回奥州乙女川燈籠流し

水沢区の市街地を流れる乙女川で8月20日、第1回奥州乙女川燈籠流しが行われました。この催しは、川原小路流灯会が毎年実施していた燈籠流しの中止を惜しみ、(株)まちづくり奥州（板屋吉治社長）と地元町内会が実行委員会を組織して開催。水沢病院そばから乙女川公園に会場を移して行われました。この日は、午後6時からの御詠歌の奉納、法要に続き、約270個の燈籠が乙女川に流されると、参加者は川面に浮かぶ灯に手を合わせ、先祖の霊を弔いました。

みずさわ 次代へつなぐ宇宙への思い 若田光一ミッション報告会



観客のそばに行って、質問に答える若田さん

宇宙航空開発機構（JAXA）の宇宙飛行士、若田光一さん（51）のミッション報告会が8月16日、市文化会館（Zホール）で開かれ、県内外から約1,000人が詰めかけました。JAXAの作業着を着て登場した若田さんは、映像やスライドを使い国際宇宙ステーション（ISS）で船長として活動した半年間の宇宙滞在について報告。国立天文台の研究者2人との対談も行われ「国際的な土俵で貢献するためには、常に開発を続けて技術を持つことが重要」と語りました。講演後の質問コーナーでは、多くの質問に笑顔で応じ「宇宙に興味を持ってもらい、キラキラ輝く力を待っている。失敗もすると思うが、それを教訓として頑張ってもらいたい」と子どもたちにエールを送りました。

えさし 蹴って走ってはじける笑顔 JFA・キリン スマイルフィールド

東日本大震災の復興支援として行われているサッカー教室「JFA・キリン スマイルフィールド」が8月26日、伊手小学校で開催されました。この日は元サッカー日本代表の中西永輔さんがコーチとして参加。「だるまさんが転んだ」などの遊びを交えた練習で、未経験の児童も楽しみながらボールに触れました。同校3年の和川彰真くん（9）は「ドリブルがすごいと思った。元代表選手にサッカーを教えてもらえてうれしかった」と目を輝かせていました。



中西コーチとのミニゲームを楽しむ児童たち

いさわ 食文化に触れ世界旅行気分 世界の料理講座

市勤労青少年ホームの「世界の料理講座」が8月20日、胆沢区の小山地区センターで行われました。講座3回目のこの日は9人が参加し「韓国の精進料理」に挑戦。全国料理学校協会特別師範の伊藤寿子さん指導の下、1時間ほどでチャプチェ、スンドゥブチゲ、にらチヂミの3品が出来上がり、参加者は「おいしそう!」と歓声を上げました。同講座は月1回開催しており、今後はモロッコ料理やロシア料理を予定。参加者は随時受け付けています。



伊藤先生（右）のお手本を見ながら下ごしらえ